

かい　　ぎ　　ろく  
会　　議　　録

<p>かいぎ　めいしょう 会議の名称</p>	<p>へいせい　ねんど　だい　かいこまきしたぶん　かきょうせいきょうぎかい 平成23年度　第3回小牧市多文化共生協議会について</p>				
<p>かいさいにちじ 開催日時</p>	<p>へいせい　ねん　がつ　にち　すい 平成23年11月30日（水）</p>				
<p>かいさいばしょ 開催場所</p>	<p>しやくしよほんちようしゃだい　かいぎしつ 市役所本庁舎第7会議室</p>				
<p>しゅつせきしゃ　およ 出席者　及  けつせきしゃ 欠席者</p>	<p>○出席者 【委員】 あさいいん　ふじかどいん　つぼいん　かりやいん　ささきいん 浅井委員、藤門委員、坪井委員、刈谷委員、佐々木委員、 しるばいん　くわがきいん　ふなはしいん　りいん　いとう　みいん シルバ委員、桑垣委員、舟橋委員、李委員、伊藤（三）委員、 いたついでいん 板津委員 【事務局】 まのせいかつこうりゆうかちよう　おちあせいかつこうりゆうかちようほさ　むらたこうりゆうかちよう 真野生活交流課長、落合生活交流課長補佐、村田交流係長、 あさひしゅじ　にわしゅじ 朝日主事、丹羽主事  ○欠席者 こじまいんちよう　とがのいん　ぎえむいん　いとう　しゅう　いん 小島委員長、梶野委員、ギエム委員、伊藤（修）委員</p>				
<p>ほうちよう　かひ 傍聴の可否</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>可　<input type="checkbox"/>否</p>	<p>ほうちようていいん 傍聴定員</p>	<p>5</p>	<p>ほうちようにんずう 傍聴人数</p>	<p>0</p>
<p>かいぎしだい 会議次第</p>	<p>1　かいかい 開会  2　あいさつ あいさつ  3　ない　よう 内容  （1）こまきしたぶんかきょうせいすいしんいんかいじつむたんとうしゃかいぎ　ほうこく 小牧市多文化共生推進委員会実務担当者会議の報告 （2）すけじゅーるしーとかいていばん スケジュールシート改訂版について （3）すけじゅーるしーとてこま スケジュールシート（テーマ：めざすこと③【ごみ】）につい てのいけん　しつもん 意見と質問  4　た その他</p>				
<p>といあわ　さき 問合せ先</p>	<p>こまき　しやくしよ　しみんさんぎようぶ　せいかつこうりゆうか　こうりゆうがかり 小牧市役所　市民産業部　生活交流課　交流係  たんとう　あさひ　にわ 担当：朝日、丹羽</p>				
<p>かいぎないよう 会議内容</p>	<p>べっし　さんしやう 別紙1参照</p>				

	かい 会	ぎ 議	ない 内	よう 容
1	開会			
2	あいさつ			
3	内容			
	<p><b>(1) 小牧市多文化共生推進委員会実務担当者会議の報告</b></p>			
	<p>(事務局) 先日行われた実務担当者会議において、前回の協議会を出していただいた意見を伝えさせていただいた。実施したものが分かるようになっており、良いという意見を受け、シートの様式を変更し、実施したものの記載をってもらうように伝えた。また、各担当者からは、防災課が市民リーダーの発掘中であるということなど、現在の状況を報告してもらった。</p>			
	<p>また、東田中県住において自治会が地域のまつりに外国人の参加を促したり、桃花台においてNPOが地域でブラジル料理教室を開いたりするなど市民の方々も多文化共生プランの推進に向けた動きが出ている。</p>			
	<p>(委員A) ブラジル料理教室の主催したNPOに属しているものである。今回、料理という道具を使ってネットワークづくりをすることを目的として開催をした。今後も、日本語教室、文化交流、プレスクール、子育てサロンなどを通して地域のネットワークづくりを行っていると考えている。</p>			
	<p>(副委員長) 地域で料理教室をやってほしいという依頼があれば対応は可能か。</p>			
	<p>(委員A) 喜んで受けたい。</p>			
	<p>(副委員長) 桃花台という場所にしたのは、何か理由があるか。</p>			
	<p>(委員A) 桃花台は外国人が多い地域であるということが理由である。地域の区長と自治会長の了承を得て開催した。</p>			
	<p><b>(2) スケジュールシート改訂版について</b></p>			
	<p>(事務局) 前回の協議会の意見を受けて、スケジュールシートを改訂した。「具体的方策」、「現状と課題」、「実施内容」、「実施時期」、「課題と改善点」という項目を設け、それぞれの内容を詳しく書くように変更した。次回の協議会では、めざすことの④と⑤について意見をいただきたいので、それまでに④と⑤の部分について、ご一読いただきたい。</p>			

(委員 B) スケジュールシートの中に、配布物を配るものがあるが、各課がバラバラでシートが見にくく、縦割りである印象を受ける。各課が連携し、プロジェクトチームをつくるなどの方法で、配布物をまとめてわたすなど、整理できないか。

また、これらの問題は、実際には各地域の現場で問題となっているため、地域の現場での行動が鍵である。もっと全自治体に働きかけ、動いてもらうようにするほうが、手っ取り早いのではないか。チラシ等も自治区を活用すると良い。

(事務局) 地域の自治会への働きかけについてだが、昨年この協議会に3名の区長に参加していただき、今年はその3つの自治区にもモデル地区となっただき、スケジュールシートも作成していただいているところである。成果があれば、この3区に区長会総会など区長が集まる会議の場で話をしてもらうことで広めていただきたいたいと考えている。外国人に対して偏見を持っている方は多い。一度にアプローチしても表面的なことはやっただけかも知れないが、本質的なご理解はいただけないと思う。この協議会の委員も1年ごとに入れ替わっていただくことで少しずつではあるが、多文化共生に理解のある区長を増やして地道に進めていきたいと考えている。

また、多文化共生プランの策定の主旨は、まずできることから始めようというものであり、誰でも出来る基本的な実践にこだわって作成されたものである。

プランには、ごみの出し方を知り、ごみの減量をめざすなどの目標があり、ごみの分別に向けて取り組むことが記述されているが、ごみの出し方そのものではなく、それをひとつのツールとして日本人と外国人が地域で仲良く暮らすことを目的としている。

(副委員長) 少しずつ多文化共生の輪を地域に広げていくということであるが、一度に大胆に周知を図ることも必要ではないかと思う。様々な手法があるということも考えていただきたい。

### (3) スケジュールシート (テーマ: めざすこと③【ごみ】) についての意見と質問

(委員 C) 自治会の方もごみに関して様々な取り組みをされてきたと思うが、外国人はイベントひとつをとっても、今メールで情報が入ったイベントにすぐ出かけるなど、行動様式もまちまちであるため、なかなか難しいと思う。

(委員 D) スケジュールシートの中に、DVDを貸出しするとあるが、もっと予算を使って市民に配ってはどうか。また、様々な配布物があるが、効果が高いものを検証して、その結果を反映させていくべきではないか。また、スケジュールシートの全体図などがないたため、各シ-

とがバラバラで、問題に対してどのようにアプローチしていくのかがよくわからない。スケジュールシートは個々の取り組みのものであるために、評価も個別のもののみになってしまい、「めざすこと③」全体での成果がわからない。プロジェクトチームをつくってそれぞれの「めざすこと」に取り組んでみてはどうか。

(委員 E) 実際にいつ行ったのかがわかりにくいという意見を前回の会議で発言したが、その意見が反映された点は良いと思う。課題と改善点を記入する欄があるが、どれだけの効果があったのかを書く欄がないので、欄を設けると良いと思う。

(委員 B) スケジュールシートの中には、と取り組んだが、改善は見られなかったという結果が書いてある。プランを実行する側と受ける側でギャップがあるのではないか。より良い手法を考えるために議論をしなければいけない。

(副委員長) スケジュールシートは1年ごとに変わるのか、それともこのまま変えないで使っていくのか。

(事務局) 日々更新していく予定である。この協議会の場で出た意見も実務担当者会議に伝え、より良いものに修正されていくというものである。今あるものが常に最新という考え方である。

(副委員長) チラシなどを配ってもどれだけの人が読むか、どれだけ効果があるか疑問である。メールという話も出たが、メールアドレスを教えてもらわないと送ることは出来ない。どの団体も非常に苦労している部分だとは思いますが、様々な方法を駆使していくしかない。

(委員 F) 周知の方法が議論されているが、知っていてもごみを分別しないような人が本当の問題ではないか。周知方法よりも倫理的な問題の方が根本にあるため、難しいように思う。

(事務局) ごみをきちんと出せるかどうかという議論になっている。分別できたかどうかという結果もひとつであるが、多文化共生プランの意図は、ごみの分別というツールを使って地域の外国人と仲良くするという多文化共生が出来たかどうかという結果を求めていることもご承知おきいただきたい。

(委員 F) 私の地域では、ごみ当番を持ちまわりしているので、多くの世帯が高い意識でごみを捨てているが、県営住宅のような大きな組織で出来るかどうかは疑問である。地域の人と顔なじみになり、主婦同士で情報交換ができればよい。

(副委員長) 地域の主婦同士がネットワークをつくるためのものが、先ほ

ど話の出たブラジル料理教室であると思う。日本料理をブラジル人に教えるというものでも良いと思う。

(委員 F) 国際交流協会でも料理教室を行っているが、出席する顔ぶれが同じ人ばかりになってしまうので、あえて狭い地域で募集をかけることが良いかもしれない。

(委員 D) 日本人と外国人が地域で仲良く暮らすために、ごみの分別などではなく、料理教室などの前向きな明るいツールを使っていく方がよいのではないか。

(副委員長) 多文化共生の最終目標は「向かい三軒両隣」がご近所付き合いできるような人間関係ができることであると思う。1日も早く、外国人と日本人の垣根をとることができればよい。

(委員 B) 外国人に対する偏見がある日本人は多く、なかなか固定観念はとれない。仲良くすると言葉でいうことは簡単だが、現実的には非常に難しい問題である。

(委員 G) 外国人は最初に市役所の市民課に来るが、そのときにカラーの「小牧市くらしのガイド」をもらえるが、その翻訳したものがあるとよい。

(事務局) 小牧市生活ガイドブックであれば、ポルトガル語、英語、スペイン語、中国語のものを作成してある。

(委員 A) 外国人はほとんど文字を読まない人が多いと思う。チラシなどで周知するよりも地域のネットワークをつくり、日本人に教えてもらったりするような関係を築くことが効果的であると考えている。また、スケジュールシートの防災の部分には外国人リーダーの発掘をするという記述があるが、文化交流やごみなど他の部分についてもリーダーを発掘し、その人たちに頼んでいけばよいのではないか。

#### 4 その他

(事務局) 本日いただいた意見を実務担当者会議に伝えさせていただいて、反映をしていく予定である。次回の会議は平成24年2月8日(水)に予定をしている。また、平成24年1月24日(火)に市役所で多文化共生フォーラムを開催し、静岡文化芸術大学の池上教授に多文化共生についての講義をしていただくことを予定している。併せて、NPOア・セントリーの活動報告も行う予定である。